

一般財団法人京都ユースホステル協会

2012年度事業報告書

期間：2012. 4. 1 - 2013. 3. 31

一般財団法人 京都ユースホステル協会は
新しい旅と、旅する青少年の健全な成長を応援します。



〒616-8191 京都市右京区太秦中山町29 宇多野 YH 内
TEL：075-462-2312 FAX：075-462-2289
<http://www.yh-kyoto.or.jp/> E-mail：kyh@yh-kyoto.or.jp

はじめに



目次

はじめに	2
目標達成状況	3
事業概況：ユースホステル活動および関連事業	
I. ユースホステル活動	4
II. ユースホステル関連活動	5
事業概況：指定管理事業	
I. 宇多野ユースホステル	6
II. 天橋立ユースホステル	7
財務状況	8
別紙：	
公益目的支出計画実施報告書	
2012年度事業別詳細資料	

2012年度は、世界のユースホステルや多様なパートナーとの連携による事業、取り組みの充実を図りました。また、持続的な運営が可能なユースホステルモデルの確立を目指し、地域の様々な資源や活動者、施設との連携しながら、事業や活動、運営の活性化、魅力づくりにも取り組みました。その他、震災後の外国人旅行者を含めた利用の回復、外部の専門機関やユースホステルの世界的なネットワークを生かし、天橋立ユースホステルの改築プラン案の作成や HI-Q（ユースホステルの品質管理マネジメント）の認証取得の取り組み、青少年の体験や学びの旅の啓発や海外からの青少年教育旅行の誘致などにも取り組みました。

その結果、ユースホステルの宿泊実績は、2011年度比8.7%の増加（宇多野ユースホステル9.2%増、天橋立ユースホステル3.1%増）の38,806名、外国人旅行者宿泊数は、90.4%の増加（宇多野ユースホステル95.8%増、天橋立ユースホステル31.1%増）の8,478人となりました。

旅 days2012などの青少年等を対象とした旅の企画や「まいまい京都」、「ここよみ」などの地域との連携事業などへの参加者数は、前年比31.3%増の20,929名となりました。

決算実績は、2012年度中間期では厳しい見通しを持っておりましたが、下半期での支出の見直しや抑制、レジ会計システム開発の遅れ等により経費の支出が次年度以降となるほか、宇多野ユースホステルが京都市との指定管理契約で定めた目標の達成によるインセンティブ収入や宿泊実績が好調による食事収入の増加により、2012年度の当期経常収支は、4,924,769円（2011年度は、▲580,040円）となりました。

多様な連携による事業の実施や宿泊実績の回復、経常収支の改善により、今後はユースホステルの特色を活かした持続可能な発展等を見据えた取組みの絞込みと成長分野へ協会資源を投資できる環境が整ってまいりました。

こうした状況を踏まえて、運営体制の更なる整備や天橋立ユースホステルの改築、宇多野ユースホステルの利用料金制を含めた次の指定管理選定に向けた取組みなどの課題に対応する他、長期的な視点と世界とのつながりを持った地域発の出会いや体験、学びの旅などの事業開拓を継続し、魅力的なユースホステル運動の再生、財政基盤の更なる安定に取り組んでまいります。

業務執行理事 高田 光治

目標達成状況

I. 数値目標

(1) 総合年間利用実績者目標数：51,800名

→ 実績：59,735名（目標達成率115.3%）

a. 宇多野ユースホステル宿泊者数

年間宿泊者目標数：36,000名（ベッド稼働率58.0%）

→ 実績：35,748名（目標達成率99.3%）
（対前年度実績比9.1%増）

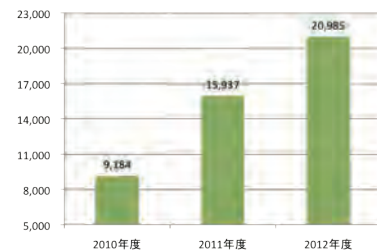


[過去5年間の推移]

c. 「旅」事業・イベント参加者数

年間総参加者目標数：12,000名

→ 実績：20,929名（目標達成率174.4%）
（対前年度実績比31.3%増）

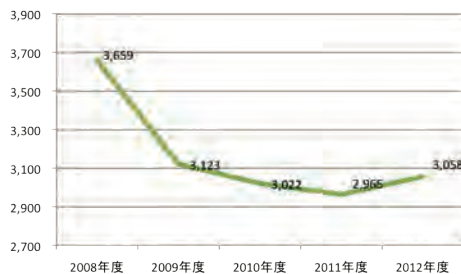


[過去3年間の推移]

b. 天橋立ユースホステル宿泊者数

年間宿泊者目標数：3,800名

→ 実績：3,058名（目標達成率80.5%）
（対前年度実績比3.3%増）



[過去5年間の推移]

(2) メールマガジン登録者数

年間目標登録者目標数：3,000名

→ 実績：2,393名（目標達成率79.8%）

(3) 取材記事・放送回数

年間記事・放送目標：20件（広告記事や参加者募集を除く）

→ 実績：23件（目標達成率115%）

内訳 新聞9件（京都新聞・毎日新聞・朝日新聞）
ネット新聞3件（Yahoo News・烏丸経済新聞）
雑誌2件（旅の手帖・月刊茶の間）
テレビ5件（KBS京都・MBS・関西テレビ・NHK）
ラジオ4件（FM京都・NHK・ラジオ大阪）

II. 実行指針

a. 世界との連携

世界的なネットワークや資源を活かした取り組みを行った。主な取り組みは以下の通り

- 1) 国際ユースホステル連盟との連携
 - a. HI-Qへの認証申請
 - b. メンバーシップセービングプログラム（会員特典）への参加
（会員宿泊費10%割引 天橋立ユースホステルで実施）
- 2) 海外の学校・青少年団体との連携
 - a. 独日平和フォーラム、CIEEなど国際ボランティアの受入れ
 - b. 台南科技大学 インターシップ受入…など
- 3) 訪日旅行者誘致の取り組み
教育旅行セミナー（メルボルン）トラベルマート（横浜）に参加
（訪日旅行を取り扱う海外エージェントとの商談、教育旅行を誘致や青少年グループの受入を誘致を行う）

b. 新しい「旅」関連事業を開発、実施

ユースホステルの特徴を活かした
「旅（ホステリング）」を検討、企画
（開催・実施は次年度以降）

c. 実行体制（外部含む）の整備

実行委員会形式による事務局型事業による実行体制作りと事業の実施。主な取り組みは以下の通り

- 1) 青少年による事業展開
旅 days2012（若者が主体の旅イベント）
構成メンバー：20代社会人・学生が中心で運営
- 2) 地域+旅事業をテーマにした事業展開
まいまい京都（京都の住民がガイドするツアー）
構成メンバー：市内の様々な団体や幅広い年齢層の男女

事業概況：ユースホステル活動および関連活動

I. ユースホステル活動

(1) 部門別目標と達成状況

- 年間総参加者数 延 12,000 名
→実績：20,929 名（前年度 15,933 名）
- 外部団体との連携による事業・イベント数：
30 団体以上／600 回（エブリデイワンを除く）
→実績：38 団体（目標達成率 126.6%）
591 回（目標達成率：98.5%）



▲旅 days 写真コンテスト「タビガラ。」より

(2) トピックス

1) ユースホステル運動普及活動ならびに体験活動

1. 若者を「旅」へと誘う

「世界をひろげるトラベルフェスタ『旅 days2012』」開催

旅好きな若者だけでなく、旅と接点を持たない、または興味はあるが一步踏み出せない若者をターゲットに、11月11日に実施しました。開催内容は、単なる物見遊山的な旅行フェアではなく、テーマを「起業」や「国際協力」、「夫婦」や「写真」等、旅に興味がない若者にも目を惹くキーワードを用意し、トークイベントではゲストの旅を通じた生き方や人生観に触れるものとなりました。実施運営は、旅に関連した学生サークルや団体を中心に実行委員を組織して行いました。当日は雨天にも関わらず大勢の若者層の来場者があり、新しい旅の啓発イベントとしての第一歩を踏み出すことができました。2013年度も引き続き実施いたします。

2. ユースホステルを通じた交流創出活動

宇多野ユースホステルでの交流イベント「エブリデイワン」は、出会いと交流のきっかけとして、また滞在の満足度向上的に継続実施して結果、一定定着しています。

課題は毎日実施をしていく上で職員を中心に企画運営していくには限界があり、今まで以上に地域イベントの発掘と彼らが自発的にイベント実施していくスタイルの確立が急務です。

① 青少年育成事業

事業・イベント名	段階	内 容
a. アースレンジャーアースキッズ	実施	年少から中学生までを対象とした年代別自然体験プログラム 88 回実施 延 1,897 名
b. フレンド・ステイ	実施	仲間同士 YH で過ごす宿泊体験プログラム 11 回 延 71 名
c. ネイチャーキッズ	実施	小学生対象の多世代間交流プログラム 11 回実施 延 221 名

② ユースホステル交流創出事業

事業・イベント名	段階	内 容
a. エブリデイワン	実施	宇多野ユースホステルで毎日実施 延 5,566 名
b. 若者コンシェルジュ	実施	学生による京都観光案内人 35 回 402 名
c. 就労体験事業	実施	中学生チャレンジ体験 6 校 22 名 鳴滝総合支援学校 就労体験受入 延 165 名
d. スプリングフェスタ	実施	地域に向けたお祭り 6/2(土)実施 1,200 名

③ 国際協力・交流事業

事業・イベント名	段階	内 容
a. 青年研修事業	中止	今年度提出したプロポーザルは採択されず
b. 国際交流事業	実施	海外インターン生や海外の学校団体を地元小学校へ交流派遣。13 回 延 52 名

④ 活動普及事業

事業・イベント名	段階	内 容
a. タビガラ	実施	「旅 days2012」として実施 延 2,950 名 トークイベント「旅ログ」2 回 延 64 名
b. ウォーキング事業	実施	京都新聞社共催「みんな歩こうファミリー万歩」12 回 延 1,882 名



▲旅 days2012



▲まいまい京都



▲エブリデイワン



▲ユースホステル部支援

事業概況：ユースホステル活動および関連活動

2) 地域や海外と関わる旅（ホステリング）事業

1. 「世界」と「京都」を意識した旅（ホステリング）展開

世界を通じた旅（ホステリング）の開発として、アメリカの環境教育機関を訪問するツアーやフィリピンの環境保護活動や企業訪問するスタディツアーの手配を行いました。

アメリカツアーでは、現地へ行くだけでなく、現地 NGO 団体の代表を京都に招いたワークショップも開催しました。また、国際ユースホステル連盟が提携する語学学校 EF とも次年度開校する日本校における郊外学習プログラムについて受入協議しています。

地域（主に京都）で行う旅は、昨年より実施してきました「まいまい京都」はじめ、単なる観光名所ではない京都を知ってもらう旅・イベントを企画・実施しました。またこれら旅・イベントの情報発信ツールとして「京都たびたび」WEBサイトを立ち上げ情報発信をはじめています。

「まいまい京都」は、参加者もコース数も順調に伸びてくる反面、生活圏に入るコースも多いため、訪問先や地域の方々への理解を得ることが一層重要になっています。今後は日本人のみならず外国人向けのプログラム開発もしていきたいと考えています。

事業・イベント名	段階	内 容
a. 京都たびたび	実施 一部計画中	まち歩きイベント「まいまい京都」337回 延3,916名 京都を学ぶスタディツアー 8回 延70名 京都たびたびWEBサイトを作成、プログラムの施行
b. ニューツーリズムの開発	実施	アメリカやフィリピンへのスタディツアー手配 アレルギー対応食品工場見学ツアー手配 京丹後体験ツアーの手配
c. 海外のユースホステル 団体と連携した旅の開発	実施	海外留学セミナーの実施 2/16 8名 語学学校と連携した旅行商品の企画開発
d. 天橋立ユースホステル 宿泊誘致・販路開拓	実施	子どもの体験活動の助成金を活用。 アースキッズ、ネイチャーキッズでの利用。
d. 旅カフェ・プロジェクト	実施	体験活動の情報発信。 「旅 days2012」へ移行、実行委員会へ参画



▲京都たびたび web

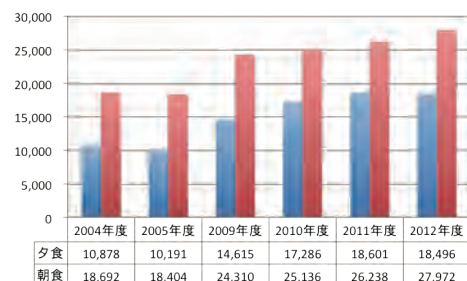


▲EF とユースホステルのコラボ商品

II. ユースホステル関連活動

(1) 目標と達成状況

- 年間目標摂取率：(夕食) 62% → 実績：51.8%
(朝食) 82.5% → 実績：78.4%
- アンケート満足度評価：4.0 点以上 ※5 点満点
→ 実績：3.6 点 (4 段階評価へ変更)



[食事摂取数の推移]

(2) トピックス

1) 食事提供数が増加

食事の提供数は、2011 年度と比べ夕食は微減（対前年度比 99.4%）、朝食は増加（対前年度比 106.6%）となりました。建て替え前を含めた実績において、過去最高の朝食提供数、夕食提供数であった 2011 年度に次ぐ高い実績となりました。これは、建て替え以降団体が増加した点が主な理由です。特に基本二食付きの修学旅行の宿泊が大きく貢献しており、過去数十年で一番高い宿泊実績となった中でも、夕食・朝食共に高い摂取率を維持している要因となっています。

また、提供数や摂取率だけでなく、食事の内容・味、価格設定、接客態度のアンケート評価（総合／4 段階評価）でも高い評価を得ています。

今後も、衛生面や安全面を確保しつつ、満足いただける食事を提供していきます。

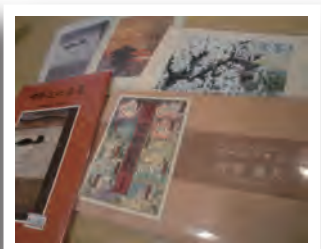
2) 地域の魅力を発信

物品販売では、丹波ワインや京北町の地ビール、きぬかけの路・ギャラリー雅堂で販売されている木版画ポストカードの取り扱いなど、少しずつではありますが、地域の魅力的な商品の販売を進めました。

これからも、宿泊者のニーズや利便性に応える商品構成と合わせ、京都らしさを感じられるものの拡充も行っていく予定です。



▲丹波ワインの販売



▲地元作家によるポストカード

1. 宇多野ユースホステル

(1) 目標と達成状況

■年間宿泊者数：36,000名（ベッド稼働率58.0%）

→ 実績：35,748名（ベッド稼働率：57.6%）

対2011年度：3,003名増

対2010年度：1,562名増

対2009年度：2,753名増

■国際ユースホステル連盟利用者満足度評価

“Most Comfortable 部門” 世界1位 2年連続受賞

→ 実績：2年連続同部門を受賞



▲ “Most Comfortable 部門” 受賞（左2011, 右2012）

(2) トピックス

1) 年間宿泊者数の目標をほぼ達成

東日本大震災により大幅に減少した2011年度からは3,003名増加し、建て替え後からの目標である年間宿泊者数36,000名をほぼ達成、1977年以降最高の実績を残すことが出来ました。

外国人の宿泊は、東日本大震災や為替の状況などで難しい時期ではありましたが、2011年度の状況からは大幅に改善されました。

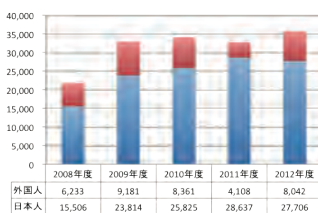
特に、イギリス・フランス・アメリカは2010年度実績近くまで改善し、オーストラリアは2010年度よりも大きく実績を伸ばすことが出来ました。これは、数年前から継続的に行っている教育旅行を取り扱う現地旅行会社への営業活動の成果であります。

（オーストラリアからの宿泊者数：1,137名）

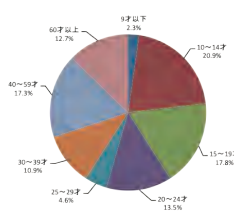
対2011年度：+708名

対2010年度：+290名

全体の年齢区分では、24歳までの割合が54.5%（～29歳：59.1%）、また1人での予約件数が全体の54.1%（～4人：88.1%）と、若い世代の個人・小グループ旅行の宿として利用ただけました。



【日本人と外国人の宿泊推移】



【宿泊年齢区分】

最終的に、2012年度は年間の公金収入想定額を超えることが出来たため、京都市担当課と協議した結果、一定割合（約97万円）を運営費の補填として受けることが出来ました。

2) 2年連続受賞達成

2009年、2011年に続き、2012年も“世界で最も居心地の良いユースホステル”を受賞出来ました。

これは単に施設の良さだけでなく、イベントの開催やスタッフの接客などにより醸し出される、ユースホステルの雰囲気が大きく影響し、トータルで居心地の良さを演出することが出来たと考えます。

次の目標としては、フレンドリー部門といった他のカテゴリーでも世界No.1になれるように、サービスや接客の更なる向上を目指します。

2012年 HI-5ives! (宿泊者が選ぶベストホステル各賞)

※世界90カ国4,000ヶ所のユースホステルが対象

- Best Hostel (ベストホステル) 2012
ラーウィック ホステル【スコットランド】
- Friendliest Hostel (最もフレンドリーなホステル) 2012
ウィキ ユースホステル【イタリア】
フローレンス タヴェルネッレキャンティ【イタリア】
- Green Hostel (最も環境に配慮したホステル) 2012
ボストン ユースホステル【アメリカ】
- Most Comfortable Hostel (最も居心地の良いホステル) 2012
京都市宇多野ユースホステル【日本】
- Best Hostel Country (最も素晴らしい国) 2012
ボスニア・ヘルツェゴビナ

3) 地域イベントと震災時の対応

恒例となっている桜の一般開放やスプリングフェスタ、地域イベントの協力によるイベント運営、近隣小学校との宿泊者やスタッフの交流事業他、宇多野学区創立40周年を記念して、初めて地域自治会連合会と協働で、地元の方が地元を歩く散策ツアーを実施しました。

また、事業以外にも、災害時には地域の活動団体や行政機関と速やかに連絡を取り、避難者の受入対応なども行いました。今後も、地域の方に求められるユースホステルとしての役割を果たせるように務めて参ります。

II. 天橋立ユースホステル

(1) 目標と達成状況

■地域型ユースホステルの運営モデルの確立

- 1) 各種関係機関と連携した地域発のプログラムの仕組化と、具体的な活動（エコツアーやカヌー体験など）の実施
- 2) 「ここよみ」や「宮津・天橋立サイクリング・ウォーキングマップ」を作成し、情報発信のプラットフォームを整備
- 3) 滞在交流型観光拠点機能強化のためのプラン作成

■年間宿泊者数：3,800名

- 実績：3,058名（目標達成率80.5%）
- 対2011年度 93名増

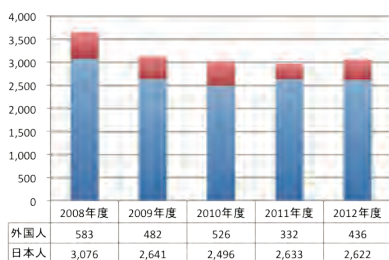
(2) トピックス

1) 地域資源の魅力を活用したプログラムの実施

これまでの取り組みを発展させ、新たな地域の魅力を発見、開拓すると共に、世代間交流や異文化交流などのプログラムや事業を展開し、地方における持続可能なユースホステル運営モデルの確立を目指し取り組みました。

年間宿泊者数は、前年度比で約3%の増加、3,058名となりました。2011年度下半期と比較すると、宿泊者数は昨年度比約14.8%の増加、外国人宿泊者は約2倍（104名の増加）となりました。

まだまだ課題はありますが、地域の人材や施設、団体との連携を深め、地域資源を活かした活動や滞在プログラムを発掘による来訪者増を図り、地方での持続可能なユースホステルの施設運営モデルの確立に取り組みます。



〔日本人と外国人の宿泊推移〕

2) 外部機関や地域との連携によるプログラム提供

滞在交流型観光拠点機能を充実させるため、「宮津市エコツーリズム協議会」「丹後海と星が見える丘公園」をはじめ各種団体と共に、宮津・天橋立を訪れる人向けの体験プログラムの開発ならびに体験を紹介した冊子「ここよみ」や「宮津・天橋立体験教育プログラム」、「宮津・天橋立サイクリング・ウォーキングマップ」を製作、情報発信に取り組みました。

また、開所50年を迎える天橋立ユースホステルの今後の展望を見据え、地域とつながった滞在交流型観光の拠点となる施設改修プラン作りを京都建築大学校と協働で行ないました。



▲建築大学校の学生による新しいユースホステルの提案パース

3) 宿泊誘致

海外からの青少年グループ旅行や個人旅行の誘致を図るために、海外の予約サイトへの登録拡大や国内のゲストハウスや観光案内所、インターナショナルスクールや留学生寮、大学ゼミ等への利用案内の送付や海外研修生の受け入れを行ないました。

またメルボルンでの教育旅行セミナー（5月）や観光庁主催のトラベルマート（11/20,21）に参加し、丹後・天橋立地域の体験プログラムや学校交流、地域の魅力を紹介するほか自転車と宿泊のクーポン企画などについて意見交換を行ないました。

- a. 大学や専門機関の受け入れ：大学4件 延べ137名
（※内1件は韓国の大学と若狭少年自然の家との連携）
 - ・建築大学校フィールドワーク受け入れ 延べ53名
- b. ユースホステルネットワークや予約サイトを活用
 - ・メンバーシップセイビングプログラムへの参加
 - ・会員に対して宿泊費を10%OFF
 - ・海外予約サイトへの登録
 - Agoda、booking.com、ホステルワールド、楽天
- c. 海外研修生の受け入れ3名（ロシア・ベルギー・韓国）

4) 災害時の防災対応

東日本大震災以降、宮津市全体の防災計画の変更に伴い、津波等の災害時の住民受け入れ対応などの役割を果たすための施設整備に向けた取り組みに必要な耐震診断を要望し、担当課から市議会への予算要求を行っていただきました。



▲宮津・天橋立自然体験カレンダー「ここよみ」



▲トラベルマート（観光庁主催）

財務状況

I. 概要

(1) 決算概況

2012年度決算は、2011年度と比べて、収支改善し、当期経常増減額は、4,924,769円となりました。

要因は、2011年度の赤字決算を受け、期中の収支状況を4半期ごとに確認すること、業務の見直し、経費削減、職員意識向上に務めた効果によるものです。

2013年度も2012年度下期に取り組んできた経費の見直しに加え、全事業的な組織の組み換えにも着手し、さらなる収支改善に努めます。

(2) 公益目的財産額について

2012年度公益目的目的支出差額は1,575,982円であり、公益目的財産額（移行前の法人が税制上の優遇などにより法人内部に留保した財産）は、末時点では47,651,494円となりました。

2013年度も引き続き京都府に提出しております、公益目的支出計画に基づき、公益目的事業を実施します。

※公益目的支出計画とは、公益目的財産額を0円するための計画であり、当協会は2020年度末にこの計画は完了する予定です。

II. 経営実績の推移

	09年度実績	10年度実績	11年度実績	12年度実績
経常収益（収入）	209,182,000	198,231,000	203,041,000	200,424,367
事業推進業務	63,257,000	64,854,000	62,046,000	58,827,653
指定管理業務	134,195,000	123,513,000	128,861,000	129,336,641
組織運営業務	11,730,000	9,864,000	12,133,000	12,260,073
経常費用（費用）	192,974,000	193,201,000	203,621,000	195,499,598
事業推進業務	46,535,000	60,219,000	61,451,000	55,982,511
指定管理業務	132,308,000	122,361,000	127,583,000	124,453,614
組織運営業務	14,130,000	13,622,000	14,586,000	15,063,473
当期経常増減額（経常利益）	16,208,000	5,030,000	▲580,000	4,924,769
経常外増減額（経常外利益）	▲6,870,000	0	▲16,925,000	0
当期正味財産増減額（純利益）	9,338,000	5,030,000	▲17,505,000	4,924,769
正味財産期末残高	60,936,000	65,966,000	49,460,000	54,385,000

※11年度は、4-7月が旧法人。8-3月が新法人の決算期間であり、その両方の合計を11年度実績としています。
※11年度の経常外増減額は、有価証券（国際復興開発銀行債）の売却によるものです。

【内公益目的事業】

	11年度	12年度	13年度予算
公益目的財産額（期首）	56,453,806	49,227,476	47,651,494
公益目的収支差額	▲7,226,330	▲1,575,982	※▲7,424,000
公益目的財産額（期末）	49,227,476	47,651,494	40,227,494

※13年度公益目的収支差額は、京都府へ提出した公益目的支出計画に基づいた金額で記載しています。

【協会名】	一般財団法人 京都ユースホステル協会
【代表者の役職氏名】	会長 堀場 厚
【財団設立】	1968年2月12日 ※2011年8月1日（一般財団法人への移行登記）
【協会所在地】	京都市右京区太秦中山町29 宇多野ユースホステル内
【電話番号】	075-462-2312（代表）